今月の情勢　～経済･金融の動向～

原油市況

原油価格は 4 月 21 日に WTI（期近物）が終値で 1 バレル＝ 75.17 ドルと史上最高値を更新した。イラン核開発問題やナイジェリアでの武装勢力による石油精製施設への攻撃を背景とした先行き供給不安に加え、米国の需要期を控え製油各社が改修やメンテナンスのため一部設備を閉鎖したことにより石油精製能力に対する懸念が高まったことによる。その後はやや調整気味に推移したものの、5 月 22 日に米国周辺で今年発生するハリケーン数が例年を上回るとの予報が発表されると再上昇し、再び 70 ドルを上回る高値となった。当面はイラン情勢の緊迫化が懸念されるほか、中国・インドなど新興国の高成長が持続していることもあり、原油価格の高止まりが予想される。

米国経済

米国では、景気拡大が続いている。06 年 1～3 月（速報値）は前期比年率＋4.8％と、前期確報値の同 1.7％から大幅に加速し、2 年余ぶりの高成長となった。06 年 5 月調査によれば米国エコノミストは、今後も 3％台の成長が続くものの、年後半には利上げの影響が浸透し始め、伸び率が緩やかに弱まると見込んでいる。一方、米政策金利は 5 月 10 日に 0.25％引き上げられ 5.00％になったが、次回 6 月 29 日も利上げされるかどうかは経済指標次第であり、2 年近く続いた利上げも最終局面に近づきつつある。米長期金利は 5 月中旬に 5.19％まで上昇した後、5.0％台に小幅低下して推移している。

国内経済

わが国では 06 年 1～3 月期の実質ＧＤＰ成長率（第 1 次速報）が前期比＋0.5％（年率＋1.9％）と伸び率が鈍化したが、5 四半期連続のプラス成長となった。個人消費、住宅投資が増加し、民需中心に回復が継続している。足下 3 月の鉱工業生産は 3 ヶ月ぶりのプラスとなり、緩やかに増加している。また主要企業の賃金、一時金ともに上昇する見通しであるなど雇用・所得環境の改善を背景に、先行き消費拡大への期待から消費者マインドも改善・向上している。一方、設備投資は企業収益の改善を受け積極的な投資姿勢が期待されるが、先行指標となる機械受注（船舶・電力を除く民需）は軟調さが目立つ。ただし日銀短観によれば、設備投資計画は大企業中心に 06 年度も増勢が続く見通しとなっている。

為替･金利･株価

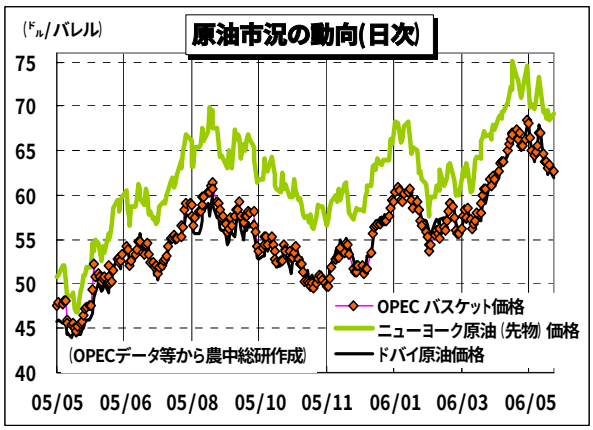
外国為替市場では 4 月のG7 以降ドル安基調が続いたが、日米金融政策の先行きに対する思惑からこのところは 1 ドル＝110 円～112 円台で推移している。日本の長期金利の目安である新発 10 年国債利回りは、日銀の量的緩和政策解除（3 月 9 日）以降上昇し 5 月初旬に 4 月中旬以来となる一時 2.0％に乗せたが、このところは 1.8％台に小幅低下して推移している。一方、3 月の消費者物価は 5 ヶ月連続で前年比プラスとなり、原油高等から先行きもプラス圏で推移する見通し。政府・日銀によるデフレ脱却宣言やゼロ金政策利解除の時期が次の焦点となっている。日経平均株価は 4 月初旬に 17,500 円台に乗せたが、このところは米株安などから 16,000 円を下回る水準で推移している。

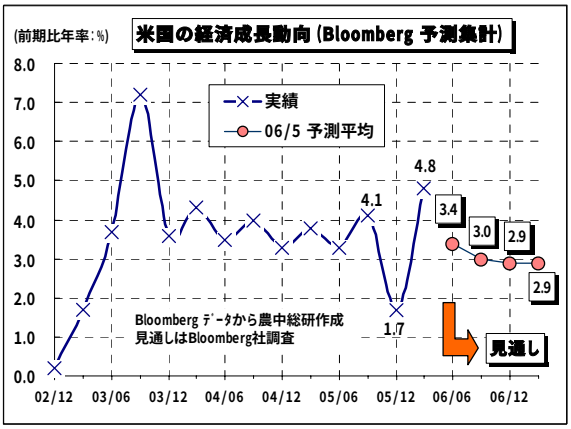
政府･日銀の景況判断

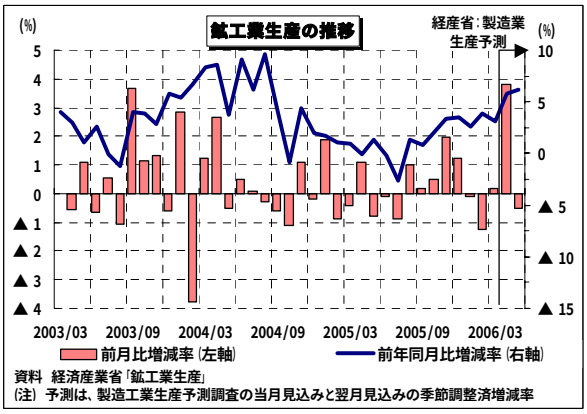
政府は 5 月の「月例経済報告」で景気判断を「回復している」と 3 ヶ月連続で据え置き。日銀も 5 月の景況判断を「着実に回復を続けている」と 4 ヶ月連続で据え置いた。

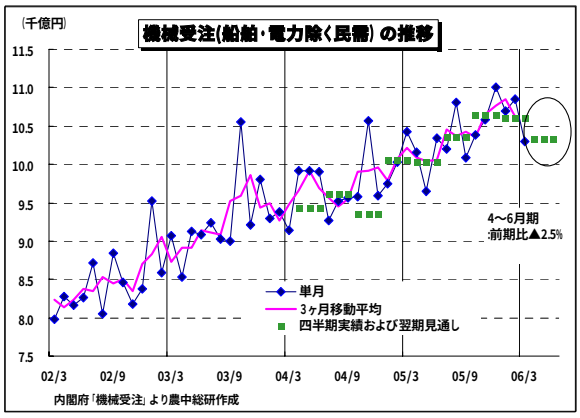
ここに掲載されているあらゆる内容の無断転載･複製を禁じます。

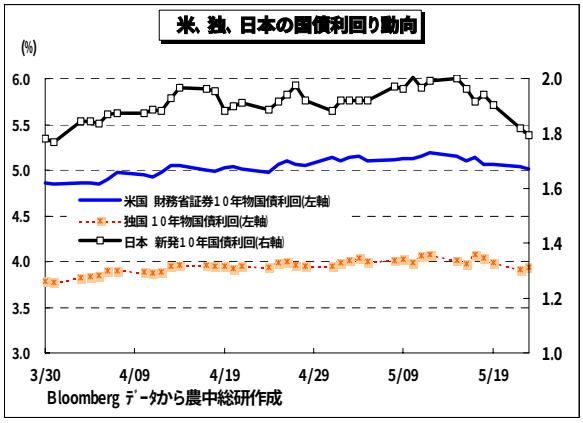
内外の経済金融データ

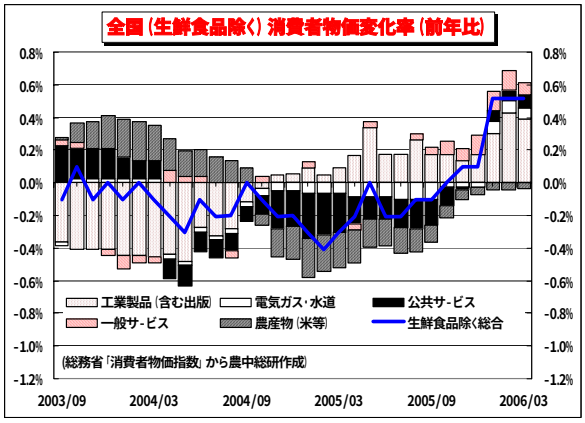












(詳しくは、ホームページ-トピックス-〔今月の経済・金融情勢〕http://www.nochuri.co.jp へ)

ここに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます。